

県連だより

OITA CONSUMER'S CO-OPERATIVE UNION

No. 96

September 2016

大分県生活協同組合連合会

〒870-0278 大分市青崎1-9-35

TEL 097-527-4056 FAX 097-527-4084

おおいたの生協



大分県へ義援金の贈呈（大分県庁にて）



「第25回親子で考える平和のつどい」（臼杵市防空壕跡地にて）



「ピースアクション in ナガサキ」 長崎平和公園・平和祈念像前にて

CONTENTS

- 大分県生協連第63回通常総会開催 2
- 県連役員・トップ研修会を開く 4
- 被ばく・終戦71年新たな気持ちで
「第25回親子で考える平和のつどい」 6
- ナガサキの想いを未来に
～原爆投下、そして終戦から今年で71年目の夏～ 8
- 熊本・大分地震での大分県への義援金贈呈 13

OITA CO-OP TOPICS

- 生活協同組合コープおおいた 14
- 日田市民生活協同組合 15
- グリーンコープ生活協同組合おおいた 16
- 大分県学校生活協同組合 17
- 大分大学生生活協同組合 18
- 大分県労働者総合生活協同組合 19
- 大分県勤労者医療生活協同組合 20
- 大分県医療生活協同組合 21

大分県生協連第 63 回通常総会開催

第 63 回県連通常総会は去る 6 月 23 日(休)に全労済「ソレイユ」において、加盟生協から代議員 50 で出席代議員 42 名、委任 8 名、県連役員 14 名が出席して開催されました。

総会は、南條晃理事が進行し、開会に先立って 4 月 14 日、16 日に発生した熊本・大分地震でお亡くなりになられた方々に「黙とう」を捧げた後、大分県医療生活協同組合の橋本まゆみさんが議長となり、最初に県生協連青木博範会長理事より「代議員のみなさまにはご参加いただき、ご多忙の中、ご臨席いただきました来賓のみなさまには感謝申し上げます。先日、コープふくしま方を熊本に東日本大震災の際にお世話になったので、お礼に行きたいとのことでお連れしましたが大雨のために行き着きませんでした。熊本では地震での復興が続いている中で、地震や水害による被害が拡大しており、益城町、南阿蘇村、西原村では追加の支援が必要となっています。大分県の生活環境部では災害支援、災害ボランティアの担当部署であり、ご支援をいただきましたがさらなるご協力をいただきたい。大分県では日田市での山間部では山崩れ等での被害が出ており支援をしなければならず、会員生協のみなさまにもご協力をいただきたい。昨年度は創立 60 周年として記念式典では広瀬知事をはじめ経済界のみなさん等各層からご出席いただき、日頃の生協の活動をご理解いただき、地域生協、職域生協、医療・福祉生協で 12 の生協でこれだけの幅広い分野の生協連は全国でもありません。60 年の歴史の中で地域の生協としての果たす役割はますます大きくなってきています。そのためにも労福協、日生協九地連、大分県消費者問題ネットワークのみなさまのご支援に支えられてきた 60 年だったと思います。まだまだ生協が果たす役割は深くなります。それぞれの生協さんで事業の他、さまざまな地域貢献活動、社会貢献活動をされております。期待される分野でもあると思います。生協だけではできない分野もありますが、ご出席いただきました組織のみなさん、行政のみなさん自治体のみなさんと一緒になって、県民のために、地域のためにしっかり活躍していきたいと思います。本日の総会では活発なご意見や要望を出していただくことをお願いします。」とあいさつがありました。

引き続き、来賓として出席いただきました大分県生活環境部の柴田尚子部長から、「平素から本県の消費者行政をはじめ県政全般にわたり、ご支援、ご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。熊本・大分地震では多くの県民のみなさまからご支援をいただいております。生協では日本生協連よりご支援をいただきお礼を申し上げます。先程から会長理事のあいさつの中にもありましたが、県では地震に対しましては、災害対応の検証を進め、防災計画などを見直して十分な対応を進めようとしています。この際、問題になりましたのは県民のみなさま一人一人が地域でご家庭で防災力を高めてもらうこと、県議会でも出たのですが、私はいつも携帯電話をもっていますが、携帯に安心・安全メールを登録していただくと、今避難情報がでてきます。災害がでているとか。登録をお願いしている。こうした防災力を高めることと、復旧・復興のため道路の復旧、農水産業、観光業への支援、住宅の被害者支援に取り組んでいる。生協では成り立ちが生活支援でスタートされましたが、現在では時代の要請、生活ニーズに応じて対応し今日を迎えておられます。連合会では 12 組合を支援する重要な役割を果たしている。併せて大分県消団連、適格消費者団体大分県消費者問題ネットワークの主要な役割を果たしているわたくしたちが消費者行政を進める上で重要なパートナーとしてご協力いただきますようお願いいたします。

ます。今いろいろな分野で地域の問題、福祉の問題など生協で積極的にかかわっていただいております。生活環境部だけでは到底対応できるものではなく、県民のいろいろな方のご協力をいただき一緒に進め、連携することが命綱であります。今年度、県では安心・安全な消費者が主役となる社会の実現の目指す総合目標として第三次消費者基本計画をスタートさせました。消費者の権利、消費者教育の向上等生協が理想とするものと同じ考えであります。各生協におかれましては組合員の信頼に応えて安定した事業運営をめざし、行政や地域団体との連携を深めていただき、今後とも地域社会の貢献を期待しています。今後とも一層のご理解とご協力をお願いし、県生協連と会員生協のご活躍を祈念します。」とあいさつがあり、引き続き、大分県労働者福祉協議会の吐合史郎専務理事、日本生活協同組合連合会九州地連の岡出洋次事務局長の代理として上原昭一さんが代読、大分県消費者問題ネットワークの井田雅貴理事長からあいさつがあり、後藤素子大分県消費生活・男女共同参画課長、東千佳子大分県消費生活・男女共同参画プラザ消費生活班副主幹については紹介があった後、中野敦議事運営委員長より議事の進行について提案があって、審議となりました。

第1号議案の2015年度の活動報告と決算報告、剰余金処分案については太田専務理事より提案があり、江藤監事より監査報告があって、全員異議なく承認、第2号議案の2016年度の活動計画と収支予算書については太田専務理事より提案され、全員異議なく承認、第3号議案の役員報酬決定については青木博範会長理事より提案され、全員異議なく承認、第4号議案の役員選任については河原伸明役員選考委員会委員長より提案があり、全員異議なく承認、その後休憩中に理事会が開かれ、代表理事、会長理事、専務理事の選任があって、再開後に河原伸明役員選考委員会委員長より報告があり、承認、新旧役員あいさつで退任役員で南條晃理事があいさつ、新任役員では、松浦和規理事と筑紫幸恵理事、萩原潤監事、監事から理事になった高瀬宏一理事からあいさつがあり、新理事会を代表して青木博範会長理事からあいさつがありました。南條理事、川辺理事には長年生協運動に活躍いただき、発展に多大な貢献をいただきましたことに感謝し、今後のご健勝を祈念申し上げます。

第5号議案の役員退任慰労金の件については太田専務理事より提案があり、全員異議なく承認され、第6号議案の議案決議効力発生については太田専務理事より提案があり、全員異議なく承認されました。その後、河野建造理事の閉会のあいさつで閉めました。



県連役員・トップ研修会を開く

県連役員・トップ研修会は、7月16日(土)に日田市隈町の亀山亭ホテルの会議室で、理事・監事、会員生協理事長など25名が参加して開催されました。

研修会は、冒頭に青木県連会長が「今日の講演は、大分県立看護科学大学の平野互准教授が『障がい者差別の解消から権利擁護、そして自立支援へ』と題して講演をしていただきますが、質疑の時間を取っていますので是非内容を深めるような意見交換をお願いします。今日のテーマそのものを県連の理事会の中では、今、生協活動の中で深めてゆく大切な一つではないかと思います。これまで事業を中心に研修会をやってきましたが、今回は違った内容でテーマを設定しました。われわれ生協陣営が先頭に立って取り組む課題とおもっていますので、十分なご意見をいただきたい」とあいさつがあり、講演となりました。

講演内容は、2006年に国連総会で「国連障害者権利条約」採択、2008年発効、日本は2014年に批准されたもので、この中に、社会モラルの前文で「障害は機能障害を有する者とこれらの者に対する態度及び環境による障壁との間の相互作用であって、これらの者が他の者との平等を基礎として社会に完全かつ効果的に参加することを妨げるものによって生じる。」と定義されており、障がいの克服は社会に責任がある。

第2条の差別の定義では、「障害の差別」とは、障害に基づくあらゆる区別、排除又は制限であって、政治的、経済的、社会的、文化的、市民的その他のあらゆる分野において、他の者との平等を基礎として全ての人権及び基本的自由を認識し、享有し、又は行使することを害し、又は妨げる目的又は効果を有するものをいう。障害に基づく差別には、あらゆる形態差別（合理的配慮の否定を含む）を含む。第12条は、法律の前にひとしく認められた権利が規定され、締約国は再確認するとされています。

これらを受けて、障害者基本法が改正され、基本原則として地域社会における共生、差別禁止、新設で、消費者としての障害者の保護、選挙等における配慮、司法手続きにおける配慮がされた。

障害者差別解消法では、法律は国連条約に準拠、差別解消のための措置、環境整備、支援措置、障害者差別解消支援地域協議会の設置。

こうした中で、大分県においても「障がいのある人もない人も安心して暮らせる大分県づくり条例」が、2010年9月に「条例づくり準備会」が発足、背景には在宅障がい者支援ネットワークの活動があり、千葉県条例から学んだ。2011年6月に「つくる会」結成総会があり、活動方針は、事例収集、聞き取りを行う。障害のある本人、家族、支援者1,200の声の集約、整理、分析を行い、条例案づくりを2012年7月に骨格案、2013年3月素案がまとまった。

県内では、別府市では2013年9月に「障がいのある人もない人も安心して暮らせる条例」が制定されており、県議会政策協議会で素案を説明し、2013年11月、県議会に請願署名を提出、2014年3月、請願採択、県執行部に対して条例案作成を指示、県では検討委員会を設置して、2016年3月、県議会で条例上程、採択、4月に施行することになりました。

この条例は、障害者の権利に関する条約の趣旨を踏まえて、相互に人格と個人を尊重し合いながら共生する社会を実現し、もって、誰もが心豊かに暮らすことのできる大分県づくりに資することです。

基本原則は、全て障がいのある人は、必要な支援を受けながら、自分の意思により選択し、自分の人生を自分らしく生きることができること。県の責任として、障がいのある人の性、恋愛、結婚、出産、子育て、親等生活を主として支える者が死亡した後の生活の維持及び防災対策に関する課題その他障がいのある人の人生の各段階において生じる日常生活及び社会生活上の課題の解消に努めるものとなっています。

最後に、わたしたちの思いと願いで、①条例を制定した意味、②社会づくりの規範、③財政措置を含む行政施策の根源の確保、④不十分な法律の穴埋め、⑤実効性はあるのか、⑥差別禁止から社会づくりへ、⑦障がいのある人の「自立」を支援する社会、⑧障がいは個人の不幸や社会の負担ではないこと、意思決定の支援等が述べられ、生協は非営利で生活を支える活動をしている団体であることから一緒に考えてもらいたいと話され、意見交換が行われました。



被ばく・終戦 71 年新たな気持ちで

「第 25 回親子で考える平和のつどい」

県生協連では、7 月 30 日(土)に「第 25 回親子で考える平和のつどい」を、県内の生協組合員やその家族 120 名が参加して、被爆、終戦 71 年目として新たな気持ちで実施されました。

今年は被ばく・終戦 71 年となることから、新たな気持ちで「戦争と平和」について考えることが、重要であり、戦争体験者は年々少なくなっており、記憶の継承が大きな課題となっている今、私たちは歴史から何を学び、どのように未来を描いていけるのか、戦争の悲惨さ、平和の大切さを後世につなぐために、「親子で考える平和のつどい」を企画し、再確認するために近隣県と県内の戦争遺跡めぐりを行いました。

日田・玖珠地区からは福岡県の大刀洗の戦争遺跡めぐりで、この地はかつて陸軍大刀洗飛行場があり、太平洋戦争末期には特攻隊員たちが飛び立った場所です。大正 8 年当初に「飛行第四連(戦)隊」があり、大戦を控え、熊本県菊池に移動、昭和 14 年に開隊した航空技術兵学校、別名西部第百部隊と言われ、最大で 6,000 名の航空技術兵が在籍し、飛行機機体・機関発動機・板金・精密機械・鉄砲火器・通信機器・落下傘など航空機にかかわる全てを教わっていました。

終戦直前の昭和 20 年 3 月 27 日と 31 日に米軍機の二度にわたる爆撃により、600 人を超える尊い命が奪われ、同時に立石国民学校の児童が避難した頓田の森で小学生 24 名が投下された爆弾で爆死、病院へ担ぎ込まれた児童 7 名も息を引き取りました。

こうした戦争遺跡である大刀洗では、第五航空教育隊正門、憲兵分遣隊舎の煉瓦塼、時計台跡(現在・慰霊碑)・監的壕・飛行隊井戸・頓田の森・北飛行場跡、平和の碑を見学し、最後に筑前町が「平和への情報発進基地」として平和記念館をつくり、この地が旧陸軍が東洋一を誇った大刀洗飛行場を中心とする一大軍都が存在し、歴史的な役割を果たしながら、米軍の大空襲で崩壊的な被害を受け、多くの尊い命が奪われたことから、現在は戦争遺跡としては数少ない状況から、過去の歴史を振り返って見ることのできる施設となっています。

大分・別府地区からは、中津市・宇佐市・日出町の戦争遺跡めぐりで、中津・宇佐では宇佐市教育委員会の広中さんのガイドで、はじめに中津市の八面山平和公園で米軍の B29 と日本



大刀洗 戦争遺跡前



宇佐市歴史資料館

軍の戦闘機の空中戦の様子、記念館では、日本の若い兵士の写真や B29 の破片、B29 に体当たりして亡くなられた村田勉曹長の「笑ッテ大空ニ散ル…」との遺書も展示していました。その後、宇佐市で 2013 年 4 月に開館した宇佐市平和資料館では宇佐海軍航空隊の歴史や空襲などの資料と映画「永遠の 0」で使用した「零式艦上戦闘機 21 型」の原寸大模型で、タイヤは実物の「疾風」のものが使用された神雷部隊の物を見学し、宇佐

海軍航空隊跡地は戦時中の空襲や戦後処理でほとんど消滅しましたが、落下傘整備所、爆弾池、連光寺の生き残り門、防空壕跡、滑走路跡、掩体壕跡、施設名は不明ですが海軍航空隊が使用し、壁に多くの弾痕が残るレンガ造りの建物、特攻隊慰霊碑、航空隊踏切、爆撃を受け多くの児童が戦死した柳ヶ浦小学校にある柳田清雄の碑や砲弾のある校門を見学、この宇佐市は、「特攻」の後方基地であったために、幾度となく米軍による空襲を受け、周辺の村も焼かれ、航空隊の兵士だけではなく多くの住民も戦死しましたと説明を受けました。

その後、豊後高田市の昭和の町で昼食、散策して、速見郡日出町の大神回天神社へとまわりました。現地では魚住修三さんからガイドしていただき、神社に参拝しました。敗戦直後基地には16基の回天が残存していましたが解体され、日出沖の海中に投棄された1基を引き上げて展示されています。この大神回天訓練基地は、1944年海岸部の基地からイ号潜水艦に搭載された人間魚雷回天を発射する基地として作られ、1945年3月～5月に突撃兵士2000名が到着して開隊されました。

当初は、本部棟、兵舎10棟、兵員浴場2棟、士官舎2棟、士官浴場、物品販売所、各科倉庫、自動車庫、格納庫、調整場、船艇格納所、弾庫、操縦演習機室、衛兵詰所等があり、訓練施設の一部として酸素圧縮ポンプ室壕、日本で唯一残っている調整場プール、燃料格納壕の横穴、回天格納庫水雷壕、士官浴場等が残っています。この基地から出撃することなく終戦となりましたが、人間魚雷回天搭乗員には、大津島で訓練を受け、1945年1月12日にグアム島のアプラ港の米軍艦に体当たりして、21歳の若さで戦死した別府市の工藤義彦中尉がおられますと説明を受けましたが、長年にわたりガイドいただきました魚住さんは今回で終わりとなります。心からお礼を申し上げます。

大分・別府地区からは、佐伯市・臼杵市の戦争遺跡めぐりで、最初に、丹賀砲台跡を訪れました。この砲台跡は、佐伯市鶴見町丹賀浦の山の上に1926年10月に着工、1933年9月に完成し、山の中を縦と横のトンネルを掘り、砲台には砲身14メートル20センチ、45口径30センチのカノン砲2砲が作られ、弾の飛ぶ距離は約26.8キロメートル、対岸の愛媛県と豊後水道への敵の侵入を防ぐためでした。1942年1月11日に実施された実射訓練の際、試射の最後の1発の砲弾が砲塔内部で暴発、16人が即死、28人が重軽傷を負ったために、砲台は使われることはなくなり、今は、戦争遺跡として砲身のあったドームと砲塔井のらせん階段、弾薬庫跡があり、広場には、亡くなられた兵士や鶴見町から戦場に行き戦死された方を祈念する平和の塔がありますと鶴見町の広津留由紀子さんがガイドしてくれました。次に、佐伯平和祈念館を訪れ、この祈念館は1934年海軍佐伯航空隊が開隊し軍都として豊後水道一帯の防衛の任にあたることになり、太平洋戦争の発端となった真珠湾攻撃を前にして、佐伯湾に連合艦隊の機動部隊が結集して、模擬演習が行われたこともあり、佐伯市もたびたび厳しい空襲を受けて多くの市民が犠牲になった歴史的背景をもつことに鑑み、この痛ましい史実を後世に正しく伝え、二度と戦争を繰り返してはならないと訴えるために、1997年4月、旧海軍兵舎の跡地を公園化した「ふれあい公園」の一角に、平和祈念館「やわらぎ」を開館しました。周辺は、各種特殊地下壕、掩体壕、通信所、火薬庫、機銃砲座などの多くの戦跡が、今なお当時の悲惨さを語りつづけている地域です。

佐伯市を後にして、昼食休憩を兼ねて「うみたまご体験パークつくみイルカ島」でイルカショーなどがあり、最後の遺跡である臼杵市の防空壕の持ち主である斉藤行雄さんにガイドしていただき、見学しました。

この防空壕は、臼杵市平清水の福良天満宮の真下の阿蘇溶結凝灰岩の岩盤を採掘した巨大な防空壕です。壕内は、10畳敷きの部屋と炊事場、便所、貯蔵庫を備える平清水エリアと150人が収容できるホールと小部屋からなる福良エリアがあり、両エリアはS字状の斜路1本で繋がっており、壕内随所に燭台立ての跡、カンテラ掛けの金具等があり、隣保班同志で避難できるように工夫されて作られたものです。

ナガサキの想いを未来に ～原爆投下、そして終戦から今年で71年目の夏～

長崎市長のメッセージ

「ピースアクション in ナガサキ」を通して、戦争のない平和な社会の実現のために熱心に活動が続けておられる皆様に心から敬意を表します。

1945年8月9日11時2分、長崎は原子爆弾により破壊され、一瞬にして街は廃墟と化し、約15万人が死傷しました。多くの方々が現在も放射線の後障害に苦しみながらも、被爆の実相を後世に伝えようと活動されておられます。私たちには、被爆者の平和への思いを引き継ぎ、71年前の悲劇が二度と繰り返されぬよう、核兵器廃絶を訴え続ける義務があると思います。これからも核兵器廃絶と恒久平和の実現に向けて、ともに歩み続けましょう。

2016年8月

長崎市長 田上富久

毎年、日本生協連と長崎県生協連の主催する「ピースアクション in ナガサキ」が、本年も8月7日～8日の2日間の日程で行われましたが、今年も大分より生協組合員とその家族が参加しました。

この活動は生協県連の独自の取り組みと日本生協連の取り組みを合わせて行っているものです。

佐世保では米軍佐世保基地を車窓から、「無窮洞」では、第二次世界大戦中に宮村国民学校（現市立宮小学校）の防空壕として、昭和18年から昭和20年8月15日の終戦の日まで掘り続けられました。掘ったのは、高等部（今の中学）の生徒たちでした。男子生徒がツルハシで掘り進み、女子生徒がノミで仕上げたといわれ、中は幅約5m、奥行き20m、生徒500人が避難できる大きさ、避難中でも授業や生活できるように、



教壇まで備えた教室をはじめ、トイレや炊事場、食料倉庫、さらには天皇の写真を奉ずる御真影部屋まで設けてあり、戦時下の時代背景を知ることができました。「無窮洞」とは、「無限」「終わりのないさま」という意を込めて、建造を計画した当時の校長が付けた名前であることを聞かされました。

その後、浦頭引き揚げ記念館を見学、この記念館は、終戦以後、昭和20年10月14日米軍の上陸艇（LST）で韓国から揚陸したのをはじめ、その後、昭和25年4月まで中国や南方諸島から引き上げてきた民間人や軍人の検疫所が浦頭にあったことから1,396,468人が祖国の第一歩を刻まれたところで、当時の服装や生活用品、検疫所の生活や故郷への帰路の姿などの写真や貨幣が展示



されていました。

最後に、釜墓地に行き、引揚者の多くは栄養失調や下痢、皮膚病で上陸後に不帰の人となった方、船中や戦地で亡くなられた方など 6000 人の御霊を祭ったところで、参加者全員で慰霊碑に黙祷し、ご冥福を祈りました。初日はここで終わり宿泊地のハウステンボスに行き、懇親や親子で一時のバカンスを楽しみました。

長崎では、平和公園や原爆落下中心地の碑と浦上天主堂遺壁等を視察する中で、生協組合員や家族の祈りを込めた折り鶴を、慰霊塔等に捧げました。

引き続き、長崎原爆資料館を見学、「原爆投下前の長崎の街や風景、それが一瞬にして破壊されたことを語る 11 時 2 分を指したままの時計の展示や、原爆投下直後の長崎の街の惨状を再現し、原爆の恐ろしさを訴えるコーナーや熱線による被害、爆風による被害コーナー」などを目前にし、身近で見ることができ、多くのものを知ること、学ぶことができました。最後に、長崎市民会館文化ホールで開かれた「ナガサキ虹のひろば」に参加しました。このひろばでは最初に被爆で亡くなられた方々のご冥福をお祈り黙祷し、オープニングとして、雲仙市立小浜中学校吹奏楽部のマーチングバンド演奏にはじまり、主催者を代表して日本生協連会長が、来賓で長崎市長の田上富久市長のあいさつがあって、平成 24 年に国立長崎原爆死没者追悼平和記念館主催の「被爆体験記朗読ボランティア育成講座」に始まり、2 年間の研修終了



後、登録メンバーで「永遠の会」として、現在 30 代から 70 代の 63 名で被爆体験の継承を目的とした朗読ボランティアの活動報告と共に、被爆者の手記を朗読、被爆二世として継承活動を行っている長崎原爆被災者協議会の柿田富美枝さんが母が 21 歳のとき長崎市職員で公会堂で勤務中に爆心地より 3 km で被爆した体験を聞き、その思いを次の世代に伝える活動をしており、その体験を語り、2016 年子ども平和会議の取り組み紹介及びアピール文の読み上げ、最後に、長崎市在住の音楽家・寺井一通さんが主催する被爆者歌う会「ひまわり」による平和祈念式典の会場でも合唱される「もう二度と」を合唱して終わりました。このナガサキ行動で、71 年経った今でも忘れられない原爆の残酷さ、被爆直後の悲惨な状況等辛い悲しい体験を私たちに伝え、行動を通じて、平和への願いを参加者全員で誓い合い帰路につきました。

戦争遺跡めぐりに参加して

宇都宮 楓

71年前の8月15日、第二次世界大戦は終わりました。

日本の空に飛来した戦闘機は、幼い子ども達の上にも爆弾を落としていきました。家も学校も街も焼け、沢山の人が亡くなりました。

そして、沖縄は地上戦で焼きつくされ、2つの原子爆弾の光が一瞬にして多くの「いのち」をうばうことで、戦争は終わりました。

私は、小学生の頃「少年の船」に参加し、沖縄でひめゆり学徒だった方から直接体験談を聞きました。

その時感じたことは、私たちと変わらない年齢の人たちが自分の意思に関わらずにかり出され、一瞬にしていのちをうばわれる戦争は、本当に怖いことだということです。

今年大分の戦争遺跡めぐりに参加し、私たちが暮らす大分県にも戦闘機が飛んできたこと、そして、大分からも特攻機や人間魚雷「回天」が出撃したことを知りました。どれほど多くの「いのち」がうばわれたか考えると悲しい気持ちになりました。

大分の戦争遺跡をめぐり、決して戦争をしてはいけなく強く思いました。

今も未来も戦争の無い世界であるために、沢山の人のこの事実を知って欲しいと思いました。

学校生協参加者作文

平和のつどい

大分市立宗方小学校 首藤 素子

かねてから一度訪れてみたいと思っていた大刀洗飛行場跡に、今回学校生協さんのお世話で行くことができました。まず驚いたのは、東洋一と言われたその広さです。今は住宅や公園になっていますが、その昔この場所に、飛行場や航空廠、航空機製作所、教育隊などのみならず飛行場に関わる人たちのための商店や旅館まであったということに、その当時の大刀洗の繁栄ぶりが伝わりました。しかし、ガイドの方のお話からこの場所で前途ある若者たちのみならず学童を含めた周辺地域の民間人の方々など多くの犠牲者があったことを聞き、改めて戦争の悲惨さを感じました。

今回、大刀洗に残る戦争遺跡を訪ねたり平和資料館の方のお話や資料を目にしたりして感じたことは、「当時の大刀洗の方々が一生懸命に生き、生活していたんだ。」ということです。その方たちの命を奪った戦争は、絶対に許せないと改めて感じた一日でした。

長崎の思い出

小5 武石 かえで

来年、修学旅行で長崎に行く前に、原爆についてくわしく知ることができたし、修学旅行では行かないところにも行けたので、良かったです。バスガイドさんが教えてくれて、バスの中から防空ごうのあとを見て、「こんなところにも防空ごうがあったんだ」と思いました。

2日目に行った原爆資料館には本物の大きさの原子爆弾の模型、人間のかげだけが残っている写真、11時2分で止まった時計、ビンがとけて変な形になって固まった物、などいろいろなものが展示されていて、中にはこわかった物もありました。資料館を見学したり、戦争のことを勉強したりして、戦争は2度としてはいけなくと思いました。



わたしは、71年前の8月9日に長さきに原ばくが落とされた場所に家族みなで行きました。その上には大きいはこがありました。わたしはそのはこの中になにがあるのか気になってお父さんにきくと「せんそうでなくなった人の名前や住所が書かれた紙が入っているよ」と教えてくれました。原ばくしりょうかんでは、手でビンを持っていたときに原ばくがおちて、手とびんがとけてくっついているものがあって、こわかったです。わたしは、せんそう、つまり国と国のけんか、という意味なので、せんそうはぜったいにしてはいけないものと思いました。そして平和なせかいがよいと思いました。



戦争の悲さんさと平和のありがたさ 日田市立三芳小学校 4年 諫山 祈里

「広い！」

防空ごうは山のしゃ面にほったせまくてむし暑い穴だと想像していました。でも、無きゅう洞は思っていたよりもずっと広く、すずしかったです。案内をしてくださった方によると、無きゅう洞は凝灰岩というかたい岩をくりぬいて作られていて、600人もの人がひなんできたそうです。しかも国民学校の生徒と先生方だけで作ったと聞いておどろきました。

平和祈念公園には初めて行きました。日田市民生協の組合員の方からあずかった千羽づるをささげ、戦争でなくなった方たちのごめいふくを祈りました。二度と戦争のない平和な世界にしていきたいと強く思いました。

二日間の旅でしたが、原ばく資料館などでは戦争の悲さんさを、ハウステンボスでは平和のありがたさを考えることができました。

ピースアクション in ナガサキ

小学校3年生の娘と参加しました。ハウステンボスが目的だった娘も、原爆資料館では1時間以上かけて、「これは、何?」「ここには何て書いてるの?」「どうして…?」と質問攻めで、当時の事実について、多くの学習をしたようです。今はわからなくても、この積み重ねが、娘の平和に対する思いを深くしてくれると願っています。

私自身、ハウステンボスの周辺にこんなにも戦争遺跡があるということにびっくりさせられました。生徒が掘った『無窮洞』。当時の生徒さんだった方の話もききました。他にも『浦頭引揚平和公園』や『釜墓地』。犠牲になったアメリカ人も祀っていました。多くの場所で多くの人が苦しめられた戦争を再認識しました。

『ナガサキ虹のひろば』で高校生平和大使の話に感銘しました。戦争について語ろうとしなかった祖父が、亡くなる前にこの高校生に託した平和への繋ぐ思いを、しっかりと受け止め、行動をおこしている高校生のパワーを感じることができました。『微力だけど無力じゃない。』という言葉のごとく、私たちも日常の平和学習・平和授業を重ねていくことの大切さを強く思いました。

今年は3年生の担任となり、1学期間子ども達と一緒に大刀洗飛行場と地元朝地の戦争の歴史について学習してきました。笑顔で写真に写る特攻兵たち。10代から20代前半の青年達は、どんな気持ちでカメラのレンズを見つめていたのだろうとずっと考えてきました。大刀洗平和記念館でじっくりと遺書を読みましたが、死の恐怖や別れの悲しみを感じさせない勇ましい内容のものばかりでした。副館長は、「手紙に書かれた思いに嘘はないと思う。ただ、残された家族の気持ちを思い量って言葉を選んだのだろう。」とおっしゃっていました。また、地元の戦争体験者に当時のお気持ちを伺ったところ、「お国のためと思い働いていた。」という言葉が返ってきました。

今回、中津・宇佐・日出地区の戦争遺跡めぐりに参加させてもらい、日出町の人間魚雷「回天」特攻隊の訓練基地跡にて特攻隊が語った言葉を聞くことができました。昼間、写真に笑顔で写るときには、お国のために貢献できる選ばれし者として本当に晴れがましい気持ちであるそうです。しかし、夜一人になると両親に親孝行できずに先に死んでしまう懺悔の思いと、死にたくないという気持ちが生まれ、3つの思いが走馬燈のように頭の中を巡り、胸が張り裂けそうになるそうです。そんな思いを聞くだけで涙が溢れてきます。

今の平和な世の中は、死を覚悟で散っていった若者達や、戦争に係わった全ての方々の犠牲のもとにあるのです。私たちは二度と同じ過ちを繰り返さないよう、学習し、伝え、正しい判断をしていかなければなりません。そんな使命感をもって生きていこうと改めて感じました。

熊本・大分地震での大分県への義援金贈呈

平成 28 年 4 月 14 日と 16 日に発生した熊本・大分地震では、熊本県での被害は甚大なものがあり、大分県でも別府市・由布市では家屋の損壊等で大きな被害がありました。

この地震に対して生協では、コープおおいたをはじめ各生協で支援物資の提供や人材の派遣、義援金の募集などを行ってきました。

日本生活協同組合連合会では、熊本県を中心に支援を続け、全国の生協に人材の派遣や義援金の募集を行い、先に全国から集めました義援金 2,000 万円とコープおおいたの義援金 1,000 万円をコープおおいた青木博範理事長と日生協九地連岡出事務局長等が県庁を訪れ、広瀬勝貞大分県知事に贈呈しました。県連では 8 月 30 日に県連青木会長理事と太田専務理事が県庁を訪れ、大分県生活環境部柴田尚子部長に大分県連と栃木県連、新潟県連、茨城県連よりの義援金を贈呈しました。

贈呈式は、後藤素子大分県生活環境部消費生活・男女共同参画課長が司会者となり、はじめに県生協連の青木博範会長理事が、先般は大分県知事に全国から集められた義援金とコープおおいたの組合員からの募金、コープおおいた自身の義援金、合計 3,000 万円を贈呈したが、今回は大分県連、栃木県連、新潟県連、茨城県連よりの義援金、合計 100 万円を、大分県でも相当な被害があり、その復興は進んでいるが、将来の対策として活用いただきたいとあいさつがあり、目録が青木会長理事より柴田部長に贈呈されました。

贈呈後に、柴田尚子大分県生活環境部長より、「生協のみなさんにおかれましては、日頃より消費生活分野におけるご協力をいただき感謝いたしております。また、先般の全国的な支援の義援金に対して感謝申し上げ、これまでいろいろなご支援にも感謝いたします。大分県でも復興は進んでいますが、特に、別府市では 6,500 棟の家屋の被害がありましたが、その後も被災証明をもらいにくる人があります。復旧・復興には時間がかかりますが、いただいた義援金はこうした被災者の支援に当てたい。引き続きご支援をお願いします。」とあいさつがあり、その後、これまでの生協における支援、災害協定の実効性のある取り組み、県としての災害対策や支援について懇談して終わりました。



生活協同組合コープおおいた

ふくしまっ子応援プロジェクトⅦ

7月22日(金)～26日(火)

大分県社会福祉協議会の県ボランティア・市民活動センターが中心となり、県下各地の社会福祉協議会などの団体が集まり実行委員会を構成している「ふくしまっ子応援プロジェクト」。今年で6回目となりました。今年は、コープおおいたのほか、エフコープ生協（福岡県）コープさが（佐賀県）も協力し、支援の輪が広がった取り組みとなりました。福島県から参加した子どもたちは大分市の田ノ浦ビーチでの海遊びは、「時間が足りない。もっと遊びたい！」といった嬉しい声も聴かれました。震災の記憶を風化させない取り組みとして、これからも継続していくべき活動のひとつです。



コープ親子体験スクール in 清川 収穫祭

7月16日(土)

作物の植え付けから管理、収穫までの循環型農業が体験できる「コープ親子体験スクール in 清川」。今年も4月から7月までの約4ヵ月間（計6回の参加）の作業の集大成を迎え参加された家族で野菜の収穫を楽しみました。収穫した野菜は会場を畑から調理施設のある集会場に移し、調理場にて夏野菜カレーを作りました。甘口・中辛・辛口、それぞれの味を作り、たいへん好評でした。参加者の多くは自宅で家庭菜園をしている方も多く、今回の参加を通じて子どもたちに食育を学ばせることができたと言っていました。もうすぐ秋の部の開校式が行なわれます。



ピースアクション in ヒロシマ・ナガサキ

8月4日(木)～5日(金)、7日(日)～8日(月)

「ピースアクション in ヒロシマ」では、宇佐市立八幡小学校の小橋 健吾君が「子ども平和会議」に参加し、他県の小中高生と交流をもち自分が今まで平和について学んだことを発表しました。今回の参加を通じて『平和の尊さを次世代へ語り継ぐ』取り組みは継続していくべき活動の一つです。



主な活動紹介



新治店改装

5月9日(月)



2016年5月9日、新治店が10年ぶりの店舗改装を行いました。売り場レイアウトの変更に加え、全照明のLED化、省エネ型のショーケースにすべて入れ替えました。

特に生鮮、お総菜コーナーの充実、アレルギー対応食材の品ぞろえも強化いたしました。

九州ふっこう割 日帰りツアー

7月24日(日)・7月30日(土)

熊本・大分震災支援活動の一環として、九州ふっこう割を活用した、`熊本・阿蘇日帰りツアー、を実施いたしました。

7月24日、30日の両日、組合員160名が参加し、被災の状況を知るとともに観光による支援活動となりました。



平和のつどい

平和活動の取組みとして、コープおおいた、遺族会、被団協の皆様とともに開催しています「平和のつどい」も今年で第22回を迎えました。

慰霊と共に不戦、平和への誓いを新たに致しました。

グリーンコープ生活協同組合おおいた

「大在キープ&ショップ^{しおかぜ}汐風」 オープン!!

6月27日(月)

6月27日(月)、大分市大在駅近くに商品の受け取りやお買い物ができる、キープ&ショップ汐風がグランドオープンしました。

当日はテープカットや、「汐風」の名付け親の方々などを招き、オープニングセレモニーが行われました。これから地域で愛される「汐風」を目指します。



平和行進

7月23日(土)

2016年7月23日(土)、平和行進を行いました。組合員や職員とその家族66人で“不戦”のゼッケンを胸に「平和を守ろう!」「子どもを守ろう!」「いのちを守ろう!」「未来を守ろう!」と楽器を演奏しながら市民に呼びかけ、賑やかに行進しました。



行進に先立ち大分駅前広場で行った平和のつどいには、銀輪隊に参加する中学生3人から「僕たちのこの国の恒久の平和を願い、自転車隊の一員として最後まで走りぬくことを誓います。」等、力強い決意表明が届けられました。リレートークでは3人の代表がそれぞれ母親の立場から平和への思いを訴えました。

大分県学校生活協同組合

大分県生協連合会主催

～親子で平和を考えるつどい～

7月30日(土)県生協連主催の「親子で平和を考えるつどい ～大分周辺の戦争遺跡めぐり～」に学校生協より8名が、福岡県大刀洗地区にある「大刀洗記念館」を中心とした見学コースと、中津・宇佐・日出地区にある、八面山平和公園・海軍航空隊跡地・回天神社を見学するコース、佐伯・臼杵地区にある丹賀砲台跡地・平和祈念館「やわらぎ」・屋敷余り特殊地下壕を見学する3コースに分かれて参加しました。

大刀洗地区見学コース

大刀洗地区は、旧陸軍が東洋一を誇った大刀洗飛行場を中心とした一大軍都が存在し、その影響下で発展した町でした。昭和20年3月に米軍の大空襲があり、民間人を含む多くの命が失われました。また、大刀洗陸軍飛行学校がありここで教育を受けた飛行兵が、特攻隊の基地として有名な鹿児島県知覧や各地の基地より特攻隊員として出撃して行ったそうです。当時、大刀洗から直接、特攻隊として出撃して行った18歳から22歳の方たちの写真や遺書などが展示されており、戦争の悲惨な状況を学ぶ事ができました。



大刀洗平和記念館で参加者と



千人針の説明 (平和祈念館やわらぎ)

佐伯・臼杵地区見学コース

まず最初の見学地は、佐伯市にある「丹賀砲台」跡地を見学しました。この砲台は、戦争中豊後水道への敵の侵入を防ぐために昭和8年に建設されましたが、昭和17年に行われた実弾発射訓練中に爆発事故を起こし、16名の兵士が死亡しました。今も、砲台内部の壁に残る傷跡が爆発の激しさを私たちに伝えていました。その後砲台は放棄され終戦を迎えたそうです。佐伯海軍航空隊跡地に作られた、平和祈念館「やわらぎ」では、戦争当時の衣服や代用品などの生活用品や召集令状や千人針、軍服や撃墜された戦闘機のエンジンなどが展示されており、当時の苦しい市民の生活を感じる事ができました。臼杵市の屋敷余り特殊地下壕は、空襲時に150人が避難する事を想定し掘られました。真っ暗な内部は驚くほど広く、大小様々な個室と、炊事場やトイレなどが設置されており、長期間の避難を想定した作りとなっていました。3ヶ所を見学し、戦争の無意味さや、当時の一般市民の苦しい生活や情勢、空襲に怯える日常を感じる事ができました。

中津・宇佐・国東地区見学コース

中津の八面山平和公園では、昭和20年5月に空襲にきたB29との航空戦で、日米双方の戦闘機が八面山に墜落しました。この航空戦で命を失った日米の兵士を追悼・恒久平和を願い建てられた碑や資料館を見学しました。宇佐では、宇佐海軍航空隊跡地・掩体壕跡を見学、その後、国東の回天神社で人間魚雷「回天」の特攻隊訓練基地跡を見学しました。

県内に残る身近な戦争遺跡を見学し、「二度と戦争はしない!」という気持ちを再確認する事ができました。



回天の特攻隊訓練基地跡地にて

TOPICS

大分大学生活協同組合

「健康フェスタ」開催

6月15日(水)～16日(木)

学生の皆さんに自分の体の状態を知ってもらうことで、病気などの予防につなげて欲しいという思いで昨年より実施しています。6月15、16日に開催しました。

今回の内容は、アルコールパッチテスト、運動（男子：腕立て伏せ、女子：フラフープ）をそれぞれ一番多くできた人に景品をプレゼントし楽しく企画を実施しました。

自転車無料点検実施

7月14日(木)～15日(金)

多くの大学生が自転車で通学してします。そんな中には自転車の整備不良による事故やけがをする学生さんもみられます。そういった事故を未然に防ごうという事で自転車無料点検を実施しました。7月14、15日の2日間で70台の申込がありました。昨年は50台だったので今年は好評でした。

同時に共済加入チェックを行い、加入者や問い合わせいただいた方には粗品をお渡しして、自分が共済に加入しているのかどうか再確認をしてもらいました。

「朝活」を開催

7月4日(月)～8日(金)

昨年に続き「朝活」という企画を7月4日から8日の5日間実施しました。生協食堂は朝8時から営業しているのですが、一人で食事をとられている方も多くみられます。朝食へ興味を引く企画として、人気のスムージーを提供しました。5日間で133個販売しました。「スムージー目当てで買いに来た」という声もあり、また女子はほとんど手にとってくれました。引き続き朝食を食べる習慣をつけていくための企画を実施していきたいと思います。

オープンキャンパス企画を実施

8月10日(水)

8月10日は大分大学のオープンキャンパスでした。生協学生委員企画として、アンケートにご協力いただいた参加者に「かき氷」を提供、また「何でも相談会」「抽選会」を実施しました。かき氷は300名近い参加者に配布、大変好評でした。

アンケートは284枚集まりました。回答内容としては「授業についていけるか、単位がとれるか、通学が不安、友達が出来るか、アルバイトの悩み、在校生と話す機会がもっと欲しい、全体案内図を用意して欲しい」などの内容が寄せられました。次年度に活かして行きます。

大分県労働者総合生活協同組合

住宅事業について

【分譲部門】

現在、大在地区（角子原）の「あすみの丘」で26区画を建築条件付きにて販売しています。

また、近隣の大分市政所（大在中学校グラウンドそば）では、分譲住宅（モデルハウス）も販売中です。ご見学出来ますのでご要望の方はぜひお問合せください。



「あすみの丘」 2016年7月撮影

【リフォーム部門】

戸建住宅の外壁や屋根の葺き替え、キッチンやお風呂など様々なリフォームを扱っています。お客様のご希望に合ったプランのご提案をさせていただきます。

旅行センターについて

◇「レゾネイトクラブくじゅう」宿泊プラン

【2016年4月1日（金）～2017年3月31日（金）まで】 1泊2食付 10,800円から
 <お得なポイント> ・60分貸切湯無料（要予約） ・1部屋2名様も同料金
 ・休前日利用でも1,000円UPのみ

◇「JALで行く品川・高輪エリアプリンスホテル2日間・3日間」

往復航空券と宿泊の東京パック旅行です（39,800円～）。
 ホテル館内利用券2,160円分付です。

◇「忘新年会プラン」

【2016年11月～2017年2月28日まで】
 別府市内協定旅館・ホテル、大分市内ホテル、居酒屋関係の手配もしています。
 幹事さんのご要望に沿ったさまざまな施設のご提案をいたします。

◇大分市内・別府市内宿泊プラン

【2016年4月1日（金）～2017年3月31日（金）まで】
 大分市内、別府市内での会議、懇親会後の宿泊として皆様にご利用いただいています。
 大分市内：7施設 別府市内：5施設を設定

総合生協中央パーキングについて

【時間貸し料金】

・昼間(8時～18時) 45分100円	昼間最大800円
・夜間(18時～8時) 60分100円	夜間最大500円

【お得なプリペイドカード】

・10,000円券を7,200円で販売 ・5,000円券を4,200円で販売

*おさるのマーク、「大分市中心市街地共通駐車券」の加盟駐車場です。

全労済ソレイユでの会議や大分市中心部商店街でのお買い物の際は是非ご利用下さい。

大分県勤労者医療生活協同組合

協同組合間連携で熊本に支援活動へ

今年4月に発災した熊本・大分地震は、私たちの身近な地域に甚大な被害をもたらしました。そしてその後の余震も続く中、追い打ちをかけるように度重なる豪雨災害に見舞われました。

そんな中、生協くまもと・日本生協連九州地連、日本生協連、日本医療福祉生協連の協同組合間連携により、被災地での健康チェック・健康相談会を行うこととなりました。当医療生協も加盟する日本医療福祉生協連からは、九州・沖縄ブロック及び中国・四国ブロックの各医療福祉生協から職員を派遣し、生協くまもとコープ春日の店頭で震災直後から7月にかけて生協くまもとの組合員さんや店舗を利用する地域住民の皆さんの健康チェックや健康相談を行いました。

当生協も5月に職員2名を派遣しました。発災から約1ヶ月经過していましたが、熊本駅周辺の家屋の屋根にはまだビニールシートがかかった状態だったり、壁に大きなひびが入っていたりと、そこかしこに被害の爪痕がまだ生々しく残っていました。

健康チェック・健康相談会には、たくさんの方にご参加いただきました。体の健康状態が気になる方だけでなく、「眠れない」「夜が怖い」「避難所でのストレス」といったお話も多く伺いました。東日本大震災と同様に継続的な支援が求められていると感じました。



「九州沖縄ブロック組合員交流研修会 in 大分」開催

7月5日(火)～6日(水)



7月5日(火)～6日(水)に「第39回九州沖縄ブロック組合員交流研修会 in 大分」が大分市で開催されました。九州沖縄各県の9つの医療福祉生協の組合員さんが一堂に集まり意見交換や交流を深める研修会となっています。今年はホスト県ということで大分県医療生協さんと一緒に準備を進めてきました。各県から延べ500名近い参加があり、盛況な交流研修会となりました。

大分県医療生活協同組合

「九州沖縄ブロック組合員交流研修会」 in 大分

7月5日(火)～6日(水)



7月5日～6日の2日間、日本医療福祉生協連・九州沖縄ブロック組合員交流研修会が、レンブラントホテル大分（大分市）で開催されました。

沖縄・鹿児島・奄美・宮崎・佐賀・福岡などから全体で9生協、462名の組合員が、大分県医療生協からは組合員・職員合わせて165名が参加しました。

1日目は鶴崎踊り・ハーモニカ演奏で各県の方を迎え、基調報告・記念講演と

続きました。記念講演ではテレビ等にも出演されている「あいうべ体操」でおなじみのみらいクリニック 今井一彰先生を講師に「食べることと歩くことができれば人生は幸せ」というテーマで口呼吸から鼻呼吸へ改善することでさまざまな病気の原因治療につながることを、いくつかの症例からユーモアを交えながらとても楽しい講演会となりました。

単協報告では、大分県医療生協、くるめ医療生協、宮崎医療生協、沖縄医療生協の4単協からそれぞれ報告があり、各単協で取り組んでいる先進的な活動が紹介され、今後の組合員活動の参考になる報告でした。



2日目は分科会に分かれ、「安保法」「転倒予防」「サルから学ぶ人間社会」の3つの中分科会と「健康づくり」「組織づくり」「社保平和」「助け合いボランティア」「まちづくり」といった5つの分科会に分かれて研修があり、各県の活動などを交流しました。



2016 年度第 1 回理事会議事録報告

1. 日 時 2016年 6 月23日(木) 16時30分～16時45分
 2. 会 場 大分市中央町 全労済ソレイユ 7階 カトレア
 3. 出席者 理事総数13名中、13名出席 監事総数 2 名中、2 名出席

議 題

4. 議 題
 〈審議事項〉
 第1号議案 会長理事及び専務理事の選任について
 第2号議案 代表理事選任について
 第3号議案 役員退任慰労金の支給について

2016 年度第 2 回理事会議事録報告

1. 日 時 2016年 7 月16日(土) 14時30分～15時45分
 2. 会 場 日田市隈 1-3-10 亀山亭ホテル 8階 会議室
 3. 出席者 理事総数13名中、10名出席 監事総数 2 名中、2 名出席

議 題

4. 議 題
 〈報告事項〉
 6 / 6 自治労信販生協通常総代会
 7 グリーンコープおおいた通
 常総代会
 15 大分県職員生協通常総代会
 18 大分県高校生協通常総代会
 19 大分県福祉生協通常総代会
 20 大分県学校生協通常総代会
 21 コープおおいた通常総代会
 23 生協県連第63回通常総会
 25 大分県勤労者医療生協通常
 総代会
 大分県医療生協通常総代会
 30 九地連大規模災害対策連絡
 会第27回世話人会
 7 / 6 県連第 1 回組織委員会
 13 平成28年度大分県豊肥地区
 総合災害訓練打ち合わせ会
- 〈単協報告・活動報告・活動計画〉
 会員生協月別報告
- 〈審議事項〉
 第1号議案 会員生協監事研修会の開催
 について
 第2号議案 第26回県議会議員との懇談
 会について
 第3号議案 県連役員視察研修について
- 〈協議事項〉
 第4号議案 県行政への要望書の提出に
 ついて
- その他
 1. 2016年度第 1 回県連理事会議事録
 2. 2016年度損益計算書（4月～6月）

2016 年度役員名簿

役職名	氏 名	所属生協		役職名	氏 名	所属生協	
会長理事	青 木 博 範	生 活 協 同 組 合 コープおおいた理事長		理 事	河 原 伸 明	自治労大分県本部信用販売 生活協同組合専務理事	
専務理事	太 田 耕 作	員	外	理 事	中 野 敦	大分県労働者総合生活協同組合 専務理事	
理 事	後 藤 哲 也	日田市民生活協同組合 専務理事		理 事	河 津 暁 爾	大分県勤労者医療生活協同組合 専務理事	
理 事	佐 藤 慈 宣	グリーンコープ生活協同組合 おおいた専務理事		理 事	田 辺 修	大分県医療生活協同組合 専務理事	
理 事	高 瀬 宏 一	大分県学校生活協同組合 専務理事	新任	理 事	筑 紫 幸 恵	大分県福祉生活協同組合 常務理事	新任
理 事	日 野 英 俊	大分県高等学校生活協同組合 専務理事		監 事	江 藤 隆 康	生活協同組合コープおおいた 専務理事	
理 事	松 浦 和 規	大分大学生生活協同組合 専務理事	新任	監 事	萩 原 潤	グリーンコープ生活協同組合 おおいた常務理事	新任
理 事	河 野 建 造	大分県職員消費生活協同組合 専務理事					